

# 令和4年度 図画工作科 授業改善推進プラン

大田区立おなづか小学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

### (1) 成果

- ・つくったり表したりする造形活動に興味を持ち、意欲的に取り組むことができている。
- ・鑑賞の時間の充実を図ったことで、自分や友達の作品の良さや面白さ、また個性の違いに気が付き、そのことを自分の作品に生かしながら活動できるようになってきた。
- ・道具の使い方、扱い方を習得し、表現に生かすことができる児童が増えた。
- ・年間計画に単元（道具の使用や版表現など）の系統性をもたせたことで、既習事項の活用結び付け、表現を広げ、深めることにつながった。

### (2) 課題

- ・思い付いたことを作品に表すために、自分で考えて工夫すること、失敗した経験からより良い作品をつくる意欲につなげることが難しい。既習事項を生かす題材設定や、確実な技術指導を通して見通しをもたせ、計画的に作品づくりに取り組ませる必要がある。
- ・題材に対して理解が足りないまま作品に取り組むことがある。導入で活動内容をしっかり確認し、活動内容を理解させてから授業を進めていく必要がある。
- ・ICTの活用が十分でない。ICTサポーターに相談したり、研修等で学んだ技術を生かしたりするなど、児童が表現活動に対して有効に操作することができる活用方法を考える必要がある。

## 2 分析（観点別）

### ① 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・素材に触れて感覚を働かせることや、新しい道具の使い方を覚えて作品の幅を広げ、造形的な視点を育むことができる児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料の使い方を考えたり、活動中に思い付いたことから発想を広げたりしていく姿が見られる。</li> <li>・友達の作品の良いところを積極的に探し、自分の作品の気に入っているところを友達や先生に伝えることができる児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のやりたいこと、表したいものを考え、意欲的に活動に取り組むことができている。</li> <li>・自分の作品に愛着をもって活動する姿が見られる。</li> </ul>

### ② 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・思い付いたことを作品に表すために試行錯誤する様子が、多くの児童から見られる。</li> <li>・既習事項を活用し、表現の幅を広げたり発想を深めたりしながら作品に取り組むことができる児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料や題材から豊かに発想しようとする姿が見られる。</li> <li>・材料の使い方や表現方法を工夫し、意欲的に活動に取り組む児童が多い。</li> <li>・友達の作品や活動に関心をもち、良いところを見付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料や道具に積極的に関わり、意欲的に活動することができる児童が多い。</li> <li>・与えられた課題から、自分の感性を通して豊かに発想を広げたり、作品に表そうとしたりする姿が見られる。</li> </ul>

### ③ 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料や題材から発想し、実現に向けて既習事項を生かそうとする姿が見られる。</li> <li>・道具の使い方を工夫して作品に表すことができる児童</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項や参考作品から、自分の表したいものを見付けようとする姿が見られる。</li> <li>・自分が感じ、思い付いた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料や道具に関心をもち積極的に活動に取り組み、表現しようとする様子が見られる。</li> <li>・つくりたいと思ったものに対して、集中して積極的に取り組</li> </ul>

が多い。	ことを表現するための手段や技法を考え、工夫して表そうとする様子が多く見られるようになった。	むことができる児童が多い。
------	---	---------------

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・道具の正しい使い方や扱い方をきちんと教え、発想や表現の幅が広がるようにする。</li> <li>・材料や道具の使い方や扱い、特性をしっかりと教え、基礎基本を定着させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入で、活動内容を丁寧に伝え、児童が確実に理解してから、活動に取り組みせるようにする。自分で考え、工夫して表すようよう声掛けをする。</li> <li>・板書を簡潔にまとめ、活動内容や作業手順が理解できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が活動中に肯定的な声掛けを行うことや、鑑賞の時間に児童同士が友達の作品を認め合う発言をするよう促すことで、作品づくりを通じた成功経験や達成感を味わい、表現する楽しさを実感できるようにする。</li> </ul>

#### (2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術指導を徹底し、道具の使い方、材料の扱い方を定着させる。表現に合わせて工夫するよう指導する。</li> <li>・自分が表したいものに合わせて材料や道具を選択できるような題材設定や声掛けを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の学習経験を生かして自分のつくりたいものを考え、工夫するよう指導する。</li> <li>・鑑賞の時間に、友達の作品の良いところを見付け、自分の発想や表現方法の幅を広げるよう鑑賞のポイントを具体的に伝え、作品の見方を指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他学年の活動を見て意欲をもつ童が多い。意欲をもって活動に取り組むことができるような題材設定を行う。</li> <li>・つくりたいものが技術的に難しいと感じた時、粘り強く取り組むことができる児童が少ない。作品完成に向けて見通しをもって計画的に作業ができるよう技術指導を行う。</li> </ul>

#### (3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・道具の正しい使い方を定着させる、繰り返し経験させ、作品づくりに活用できるような年間計画を組む。</li> <li>・児童が自分の表したいことに合わせて技能を働かせることができるよう技術指導を徹底して行う。表現に幅をもたせ、作品に生かすことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・造形遊びの活動を定期的に行い、思い付いたことを表現する楽しさを伝える。既習の学習経験を生かして課題に取り組み、自分の行為や表現に価値付けをしながら活動に取り組むよう指導していく。</li> <li>・友達の作品や美術作品の鑑賞を通して、そのよさを言葉で表現し、友達と伝え合ったり、作品に生かしたりできるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使いたい材料や道具を自分で選び、表現に活用する。</li> <li>・既習事項を生かして表現する活動を取り入れ、意欲につなげる。</li> <li>・参考作品の例示やICTを活用し、表現の引き出しを増やすような指導を行う。表現に向かって発想を深めることが難しい児童が活動に取り組む手掛かりとする。</li> </ul>